

ひまわり

2017
NOV



もくじ

- 2 情勢 ～東日本大震災「その後」から～
- 3 きょうされん全国大会in北海道参加報告
- 4・5 ハートフェスタ2017ご来場ありがとうございました!!
- 6 ちょっと聞いてよ! 第13回・時・ご寄付

ハートフェスタ2017開幕宣言

社会福祉法人 亀岡福祉会

法人本部：〒621-0033 京都府亀岡市蕨田野町佐伯大門30-1

TEL:0771-24-2596 FAX:0771-24-2597

HP <http://www.kamecomyu.net/>

西村 直

TADASHI NISHIMURA

社会福祉法人亀岡福祉会
理事長

東日本大震災「その後」から

台風21号が日本列島を直撃した10月22日、第48回衆院選が行われ、向こう4年間の新しい衆議院の国民代表が選ばれました。

次々と発表される開票結果と同時に、巨大台風の被害状況も映し出される例のない報道風景になりました。否応なしに災害支援と政治を考えざるを得ない開票日になりました。

新しい国会議員には、障害のある人や家族のみなさんが安心した地域生活を送れるよう、そして働く職員が安定して「障害のある人たちの願いに応える」仕事が続けられるよう、それらをしっかりと下支えする法律、制度をつくる政治がおこなわれることを心から願い、期待するものです。

震災と障害のある人の実態

今回の総選挙ではあまり触れられませんでした。ここ数年特に頻発する自然災害にどう対応するかも重要なテーマだったはず。ハートフェスタ2017に、東日本大震災でご自身のご家族を津波で亡くされた体験をお持ちであり、宮城県山元町にお住まいの太田恵さんをゲストとしてお呼びしました。「その時」と「その後」のお話をしていたいただいたのもそんな背景がありました。

「私が行かないとグループホームの利用者が助からない」と大地震の直後

に勤め先の高齢者グループホームに向かった太田さんのお母さん。「先に避難しなくて、後で行つから！」の言葉が最後の会話になりました。何日もかかって行方不明のお母さんを何百と並んだ棺の中から探し当てての「再会」。言葉を失う体験談に大きな衝撃を受けたと同時に、自然の猛威は「想定外」などないことを思い知らされました。

太田さんが働く仙台市の「はらから福祉会」も大きな被害を受けました。

避難所訪問など利用者の安定した生活の支援を法人職員総ぐるみで取り組みながら、「震災のせいで工賃が下がった」との言い訳はきかない」とあらゆる手立てを駆使して一人7万円の給料をめぐらしたといいます。障害者事業所としての使命感と関係者の絆の強さに驚嘆しました。

大地震や大水害等々の自然災害が引き金になって、太田さんのような予測もしない事態が起こります。東日本大震災後の調査で明らかになったのは、障害のある人の死亡率は障害のない人と比較して2倍以上だったことです。

それは死亡率に留まらず、震災による生活のしづらさの発生率やその後の対応の遅れは、障害のある人に集中する実態が明らかになりました。

その教訓は熊本大地震でも生かされることなく、また繰り返されました。ハートフェスタ2017のステージで皆さんと共有したのは「平時の備え」の重要さと併せて、震災関連死による

死者の異様な多さでした。東日本震災の地震津波等の直接死は15,856人、一方震災関連死は3,592人(2017年3月現在)、福島県に至っては直接死1,613人を超す2,147人がその後の震災関連の犠牲者(同)と公表されています。原発事故の影響で岩手、宮城県をはるかに超える避難生活を強いられた方、故郷への帰還を諦めざるをえなくなっている方々の心身の労苦がこの数字に表れているでしょう。ちなみに避難者総数は現時点も84,364名です。

終わっていない、忘れない

太田さんが私たちに伝えていたことは、いつ遭遇するは分からない災害発生時に最大限「命」を守る備えをできる限り具体的に行うこと、起こった時には障害のある方や高齢の方が安心、安定した日常生活を送れるよう福祉避難所などの整備と確認をしておくこと、それらの準備は命と財産、地域の生業、コミュニティを守っていく立場で行政がしっかりとその役割を担っていくこと、少なくともその対応の遅れなどから「関連死」と言われる犠牲者を出さないこと、などではなかったでしょうか。改めて「終わっていない」「忘れない」を確かめ合った「ハートフェスタ2017」のステージでした。

きょうされん第40回全国大会in北海道(9/15~16)に参加してきました!!来年はいよいよ京都で開催します!!

「あたりまえに働き えらべる暮らしを」を大会のテーマに、きょうされん第40回全国大会in北海道が札幌コンベンションセンターと札幌市産業振興センターで盛大に開催されました。

障害のある人たちを含む2,500人も仲間が全国各地から集い、亀岡福祉会からは、メンバー、家族、職員合わせて16名が参加し、2日間に渡り、学習や交流を深めました。

きょうされんが誕生して40年。記念すべき節目の大会は、テーマソング「つなげよう時計台のまちから」の大合唱で幕をあげました。また、ステージ企画では「共同作業所づくり運動・50年のものがたり」を合唱と映像で歴史をふり返り、歩みを確かめ合うとともに、つぎの未来に向けての思いを一つにしました。特別分科会では、「生きたかった」相模原障害者殺傷事件から1年の今を検証する「」などの分科会が設けられ、私たちが、「今」と向き合い、ともに考え合い、だれもがあたりまえに生きるこの大切さを深め合いました。

2日目は、分科会や利用者部会にそれぞれわかれ学びを深めました。メンバーが参加した「あなたの夢や願いを教える」の分科会では、「これからもずっと仕事したい」「泊まりがけで旅行に行けるガイドヘルプの制度ができてほしい」と自分の願いを語り、「障害のある人とならない人がまじわって生活できる町になったら

いいなあ」と率直な思いを発表しました。

大会1日目の朝には弾道ミサイルが北海道上空を飛んでいくという、緊張した状況での大会ではありましたが、改めて、平和な社会の実現こそがだれもがあたりまえに自分らしく生きることに繋がると参加者みんなで確かめあう大会でもありました。

京都では、「ともに生きる」ともに創る 夢ある未来へ京都からこのメインテーマのもと、人と人が手をつなぎともに生きることを大切に、ともに考え合う地域づくりを進め、夢ある未来を京都から発信していきたいと思えます。開催まで1年を切った今、どんな笑顔と出会うことができるのか、ワクワク感がいっぱいです。皆さんとともにきょうされん第41回全国大会in京都を創っていきましょう。



亀岡福祉会参加者の声



1日目は開会式と労働の分科会に参加し、その後交流会に参加しました。交流会のジンギスカンとビールはとても美味しかったです。2日目は労働の分科会で、第二かめおか作業所で働くことに関するレポートも発表できました。年を取っても、ずっと作業所で働いてグループホームで生活したい。その事を発表し、色々な人と意見交換ができました。それが一番の良い思い出です。来年の全国大会では、メンバー実行委員として参加します。北海道の全国大会で見てきたことをいかしたいと思えます！
第二かめおか作業所 岩田章

全国大会では、愛知で作業所が立ち上がった当初のこと、嬉しかったことや苦勞したことなど、その時に関わってこられた藤井さんや鈴木さんがお話されたことが印象的でした。また、どこの作業所にも大切に歌い継がれている歌があることを知り、もっとたくさん聞いてみたいなと思いました。けれども私は、亀岡で生まれた「この街に生きて」が大好きです。この歌はいつも涙が出そうになります。参加された皆さま、お疲れ様でした。
保護者 西村順子(第三かめおか作業所)

私は、分科会で聞いたメンバーさんの発表がとても印象に残っています。一人暮らしに胸をわくわくさせ、グループホームに入居すると、光熱費など色々な出費があり遊ぶお金もなく一人、寂しく泣いた日々だったそうです。そんな時、ある職員さんの「頼ってもいいよ」の言葉を思い出し相談すると、素直に自分の気持ちを話せ、これからの暮らしに希望が持てたと話されていました。障害のある人もない人も皆、命を受けて生きているのです。皆さんが幸福になれたらと思えました。また、私自身この仕事をさせていただき、本当に良かったと改めて思い、少しでもみなさんのお手伝いできればと思えました。
グループホームキーパー 矢田かよ子

ご来場ありがとうございました!!

9月24日(日)、亀岡運動公園広場にて「ええやん この街!ハートフェスタ2017」を開催いたしました。毎年秋に行っているこのイベントは、亀岡福祉会と信和福祉会、自立支援センターかめおか、みんなではたらくの4者共催で行っています。ハートフェスタは、障害のある人も、ない人も、楽しい一日を過ごしながら「ともに地域で暮らす」を感じていただく場として開催しています。今年も多くの福祉事業所や、地域の自治会で、食べ物や物品を販売する多数の模擬店や、お子さんが楽しめる様々な企画を催し、2000人を超える多くの方々のご来場をいただきました。

今年の目玉企画としては、6年半の時間が経過した、東日本大震災を風化させない取り組みとして、自らも被災し、ご家族を亡くされた宮城県のある障害福祉事業所の職員である太田恵さんをお招きして、当時の実体験と、被災地の現状をお話しいただきました。会場では涙ぐむ方もおられ、決して終わってはいないことを多くの方が再認識できたのではないかと思います。



今年のテーマは「広がる笑顔 みんなの輪」!

ハートフェスタ2017



ステージ発表では、障害のある方が中心となり
亀岡などで活動されている和太鼓グループ「DO
N舞」や、キッズダンスの「グルンサチ ダンス
カンパニー」が大いに盛り上げてくれました。
ご来場くださった皆さん、協賛いただいた皆さん、
ボランティアの皆さんに、紙面をもちまして、
お礼を申し上げます。「本当にありがとうございました」



展示では熊本への応援メッセージが
来場者から多数寄せられました！



「ちょっと聞いてよ！」

第13回
やまもと かおる
山本 馨さん
(第二かめおか作業所)

山本馨さんはホームたけのこを利用して、リサイクルグループで作業しています。資源回収はもちろんアルミ缶、ペットボトル、牛乳パックの処理作業に毎日一所懸命です。

仕事をしています、どうですか。

好きな仕事はペットボトルのラベルめくりです。ラベルはめくりやすいし、よつけ仕事ができます。このころ、仕事がよくあつて毎日忙しいです。

そうですね。どの仕事も山盛りで大変ですね。

仕事があつてうれしい。家でもアルミ缶とかペットボトルを集めています。

本当に仕事が好きなんです。ところで作業所の行事はどうですか。

旅行に行くのが楽しみです。この前は大阪と神戸に行きました。宴会のカラオケがよかったです。僕は「さざんかの宿」を歌いました。

山本さんの歌、格好よかったですよ。また、旅行に行きましょう。そのお金づくりになるボーナス取り組みがすすんでますね。

これからはアルミ缶つぶしもがんばりたいです。

旅行の他にはどんなことにお金を使いたいですか。
喫茶店に行つて、美味しいカレーを食べて、美味しいコーヒーを飲みたいです。

美味しいものが好きなんです。

休みの日は、家に帰って買い物に行きます。肉とか買います。肉は美味しいです。

ホームたけのこはどうですか。料理が美味しいのがよいです。

これからの希望を聞かせてください。ずっと作業所で働いて、ホームたけのこで暮らしたいです。



ご寄付 9月/10月

10/2 株式会社タイセイ様 ジュースセット

10/30 時岡 健二様 お花苗等

ご寄付ありがとうございました。

時

中年期に入り早や数十年「めぐる季節が早くなってきたな」と感じる。年を重ねるにつれ加速しているようにさえ感じる。

10月に入ると来年の手帳が並び、今年もあと2ヶ月程か「ひえーっ」。

近頃のわたしは、先延ばし事項多数、五十肩で激痛、丸みを帯びてきた姿勢、重力には逆らえない体型、コレステロール値上昇、眉間にシワ。「ええとこないな」、「トホホーッ」と、つぶやいている。

が、しかし、「めげたらあきまへん」と日頃の怠け心と丸まった姿勢等を反省し、残り数か月の手帳に改善策を記し、まずは、美人職員から教えてもらったストレッチから始めよう。

「やればできるやん」と思えるよう、後2ヶ月を過さそう」と少々空元気ではあるが意気込んでいる。

来年は、平穏で健康で笑顔で、ありますように。

(Y)